

1. 内政

- ・23日、共産党は、現政権の退陣及び繰上げ総選挙等を要求する抗議運動を開始し、検事総局前(23日)、「テレラジオ・モルドバ」社前(24日)及び農業・食品産業省前(25日)において集会を実施。23日、ドドン社会党党首は、同党は条件次第では共産党の運動に加わる用意がある旨発言。
- ・24日、与党連合3党は、合同の会合を開催し、ビリニウスでのサミットにおけるEUとの連合協定仮署名に向けた直近の課題及び議会秋冬会期の優先事項等に関し協議。
- ・24日、コルマン議会議長は、検事総局改革に関する一連の法案の年内採択を目指す旨発言。
- ・26日、議会は、秋冬会期の第一回本会議を開催。ヴォローニン共産党党首は、議会の解散・繰上げ総選挙を要求。与党各会派代表は、実現しつつある改革プロセスを停止するわけにはいかないと、ビリニウスにおけるサミットに向け協働を呼びかけ。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・24日、ラザル副首相兼経済相は、同省が近い将来、2013年の最新のモルドバ経済成長率予測を4.0%から5.5%に上昇修正する旨発表するであろう、2013年の前半のGDP成長率が4.9%であり、その数値に満足している、2014年の見通しについては、同省がIMFとの交渉の中でその状況を分析している旨発言。

3. 外交

▼カウル・インド国務相の来訪

- ・23日、レアンカ首相は、来訪したカウル・インド国務相と会談し、保健、再生可能エネルギー、農業、工業及び教育等の分野における両国経済協力、政治対話の活性化等に関し協議。
- ・23日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、カウル国務相との会談において両国協力関係の現状及び発展の展望及び国際機関における協力等に関し協議し、インドからモルドバの投資及び両国商工会議所の協力拡大に期待している旨発言。
- ・24日、ティモフティ大統領は、カウル国務相と会談し、両国経済協力の重要性を強調。同大統領は、モルドバのワイン産業にとりインド市場は特に関心がある旨発言。カウル国務相は、50以上のインドの製菓会社がモルドバ国内で活動しており、商工会議所の関係活性化及びビジネスフォーラムの開催により両国間貿易量は増加するであろう旨発言。

▼レアンカ首相の訪米・国連総会出席

- ・24日、レアンカ首相は、ハンガリーの格安航空会社ウィズエアのキシナウーベネチア及びローマ線の就航記念式典に

出席。同日、同首相は、ローマ行き第1便に搭乗し、ローマ経由で第68回国連総会出席のためニューヨークへ移動。

- ・25日、レアンカ首相は、訪問先のニューヨークにおいてファン＝ロンパイ欧州理事会議長及びアシュトン外務・安全保障政策上級代表と会談し、モルドバ・EU関係に関し協議。同日、同首相は、ヤーグラン欧州評議会事務総長と会談し、モルドバにおける改革の支援に関する欧州評議会の行動計画につき協議。また、同首相は、安倍総理との立ち話においてモルドバの保健システム改善のための日本による継続的支援、日本からの投資の誘致等の二国間関係に関し協議し、ハイレベルでの相互訪問の実施に言及。

- ・26日、レアンカ首相は、国連総会での演説において沿ドニエストル地域からのロシア軍の完全撤退を呼びかけ、モルドバは同地域の特別な地位に関する良識的な妥協案を提示する用意がある旨等発言。

- ・27日、レアンカ首相は、グリボウスカITE・リトアニア大統領と会談し、両国関係及びモルドバ・EU関係等に関し協議。同大統領は、ビリニウス・サミットはモルドバを成功へ導くであろう旨発言。

▼対EU・ロシア関係

- ・23日、ラザル副首相兼経済相は、20日に実施されたモスクワ訪問を総括し、モルドバのワインのロシアへの輸出問題は今後数週間以内に解決できるであろう旨発言。また、同相は、「モルドバガス」と露「ガズプロム」の天然ガス供給契約が2014年末まで延長され、同年の平均価格は370米ドル／千立方メートル程度であろう旨発言。

- ・25日、ブマコフ農業・食品産業相は、EUとのDCFTA署名後の一定期間はモルドバの生産者はEU基準との適合過程において厳しい状況に置かれる可能性を指摘しつつ、結果的にEUの支援によりモルドバ製品の質は向上する旨発言。また、同相は、ロシアへのワイン輸出停止による損害は4,000万米ドルに達する可能性があるとして、政府は輸出が早期に再開されるよう最善を尽くす旨発言。

- ・25日、レアンカ首相は、チョロシュ農業・農村開発担当欧州委員と電話会談。同委員は、モルドバ産ワインの伝統的な輸出市場との関係における困難の埋め合わせとしてEU・モルドバのDCFTAを含む連合協定の発効前に欧州委員会はモルドバ産ワインに対してEU市場を完全に解放する提案を行う決定をしたとして、欧州理事会及び欧州議会に対し本修正が速やかに採択されるよう求める旨発言。

▼その他

- ・24日、ラザル副首相兼経済相は、ブリュッセルにおいてエッティンガー・エネルギー担当欧州委員と会談し、モルドバのエネルギー安全保障の問題に関し協議。25日、同相は、

デ=ヒュフト貿易担当欧州委員と会談し、モルドバ・EU間DCFTA及びモルドバ産ワインのEU市場への開放に関する同日付欧州委員会決定等に関し協議。

4. 沿ドニエストル

▼レアンカ首相・シェフチューク「大統領」会談

・23日、レアンカ首相は、ティラスポリを訪問し、シェフチューク「大統領」と初の会談を実施。双方は、地域間の社会・経済及び検問所の設置問題、EUとのDCFTA署名の影響等に関し協議し、2012年3月に署名された沿ドニエストル地域経由での鉄道貨物輸送に関する協定を1年3か月延長する旨の議定書に署名。会談後、レアンカ首相は、ロシア及びウクライナ国籍の沿ドニエストル住民のモルドバへの出入国手続は近日中に簡素化される旨発言。24日、OSCE議長

国ウクライナのコジヤラ外相は、同議定書の署名を歓迎し、更なる対話の進展を期待する旨の声明を発表。

▼デシツァOSCE議長国特別代表のモルドバ訪問

・26日、デシツァOSCE議長国特別代表は、ティラスポリにおいてシェフチューク「大統領」及びシュタンスキ「外相」と会談し、次回「5+2」者交渉の準備状況等に関し協議。

・27日、同特別代表は、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相と会談し、モルドバ・OSCE関係、沿ドニエストル紛争解決、12月のOSCE外相会合の準備状況等に関し協議。会談後、同特別代表は、沿ドニエストル地域との境界への検問所の設置に関しては両当事者で協議を行うべきである旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)